

東海地震にうんだ中部地方の中核拠点は、名古屋工業大の谷口仁士教授（地震都市防災工学）一写真二らが、2001年から独自の研究を始めており、昨年末、JR稻沢駅（愛知県稻沢市）の操車場跡地を候補地とする「防災ストックヤード」構想をまとめた。拠点に必要なものは何か。谷口教授に聞いた。

## 名工大 谷口教授



## 「広大なスペースと輸送手段が必要」



東海地震にうんだ中部地方の中核拠点は、名古屋工業大の谷口仁士教授（地震都市防災工学）一写真二らが、2001年から独自の研究を始めており、昨年末、JR稻沢駅（愛知県稻沢市）の操車場跡地を候補地とする「防災ストックヤード」構想をまとめた。拠点に必要なものは何か。谷口教授に聞いた。

谷口仁士教授（名古屋工業大）

谷口仁士教授は、名古屋工業大学の地震都市防災工学科で教鞭を執る。専門は、地震による構造物の耐震化や、災害時の輸送手段の確保など。現在は、東海地震による災害リスク評価や、防災ストックヤード構造の検討を行っている。

## 毎月1日は東海地震特集

# 備ええる

東海・東南海地震などの大規模災害に備え、国と自治体の県境を越えた中部圏では県レベルで、中核拠点には、大規模整備する広域拠点として、その中から「中核的」を中核的広域防災拠点（中核拠点）の候補を示した。昨秋、国は十五地域（図左）の候補を示した。

東海四県（岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県）名古屋市などでは、この候補地選定が実現され、被災地への救援物資の一次的な集積地となり、状況に応じて各地の拠点へ素早く配分する。海外か

ら、具体化へ向けて動きが加速しようとしている。日本初の中核拠点は、「有明の丘地区」（東京都江東区）の予定地も歩き、防災ネット整備の現状と課題を探った。

東海・東南海地震などの大規模災害に備え、国と自治体の県境を越えた中部圏でも関東関西に亘り、防災ネットの中心となる中核的広域防災拠点（中核拠点）の候補地が名古屋空港と名古屋港の二つのゾーンに絞られた。被災地への救援物資の搬入するが焦点だが、名古屋空港と名古屋市内で内閣府と国土交通省中部地方整備局が緊密に連携を進め、五月十九日には、名古屋市近郊でつくる広域防災ネット（中部四県）は、当初から名古屋空港は、中核的広域防災拠点（中部四県）が最も有力（中部地方整備計委員会が開かれた）。二つ同時に整備を進める局だった。名古屋市近郊が、さらに一つに絞るに至るが焦点だ。五月十九日には、名古屋市近郊が、さらに一つに絞るに至るが焦点だ。五月十九日には、名古屋市近郊が、さらに一つに絞るに至るが焦点だ。

関東、関西で「基幹的広域防災拠点」の整備を始めたのに続き、一昨年（1995年の阪神大震災では）、中部圏での中核的広域防災拠点（中核拠点）が多いため、一部地域に偏つた。国や各自治体が情報共有化が進み、ライフルラインの復旧が遅れるなどの問題も指摘された。こうした反省から進むべきである。中核拠点はこれらの拠点を結ぶ防災ネットワークづくり。国は

東海・東南海地震などの大規模災害に備え、国と自治体の県境を越えた中部圏でも関東関西に亘り、防災ネットの中心となる中核的広域防災拠点（中核拠点）の候補地が名古屋空港と名古屋港の二つのゾーンに絞られた。被災地への救援物資の搬入するが焦点だ。五月十九日には、名古屋市近郊が、さらに一つに絞るに至るが焦点だ。

五月十九日には、名古屋市近郊が、さらに一つに絞るに至るが焦点だ。

五月十九日には、名古屋市近郊が、さらに一つに絞るに至るが焦点だ。